



父のことば vs 蛇の舌 悪の舌 (ラション・ハラア)

2015.9.4

ラション・ハラア Lashon HaRaah
舌 悪

「長生きできるか」
= 聖山に住むのか。

はじめの
ストーリー

R12: シムカ
(イザヤ)

詩法

↓
適用

1. 1.07.0 3:10 (3:8-12...) 長生きしたいですか?

詩34:11-16 悪の舌、欺きの舌をくちびる。

詩15: 幕屋、聖山に住む人は?

詩24: 聖所、幕屋に立つ人は? 欺き誓う

創13: 蛇の舌、欺き。一園から、いのちを奪う...

創12: Tomb of Rahab 知恵の木 - 知恵 *

レビ19: 隣人を愛しなさい。19:18b
19:16 人を憎むな。他人を侮辱するな。
(内緒話の行商人、話を仕立て、他家を売る)

箴言33:2: 特に 10:-22:16 (10:-15/16:-22:16)
10:-15: 正者 vs 悪者 x24 <5:13 x32, 10:31, 舌 x12
+ 知恵、知恵 x27, x20, x14 vs 愚か x30, x17, x13
* 主に恐れることと父が子に教える。 いのちの道 x19 x33

— 父のことば vs 蛇の舌。—
権威

父のことばに従うのか。
vs 偽、欺、悪の口舌唇。
— 詩12:3-4 舌は偽悪者の舌。

父は知恵におと家と建てて。
詩「家」父母兄弟、兄弟、隣人
富、知恵...

神の家に住む - 神の子と子。
父のことばを善し 詩119, x176節

民の父は - 預言者、神の家、ことばの人

マタイ23:35, 11カ11:30 アベル血を流す
忌まわしい舌、わざわいな悪人の報い
(vs 幸い舌、義人の報い)

まわりの子、偽善者。
ヤコブ4:3: vs 質美、ハレルヤ

「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押えて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず…」は第1ペテロ3章にありますけれど、これが元々は、詩篇34篇から来ています。34篇の引用になっています。(11節)「来なさい。子たちよ。私に聞きなさい。主を恐れることを教えよう。」

主を恐れて長生きするときに、いちばん最初に出てくる気をつけなければならないことは、悪い舌。悪い舌というのは非常に強調されているところです。

ラション・ハラアは、ラションが舌で、ハがオブなのか? ラアが悪。悪の舌というヘブライ語で、このラション・ハラアに気をつけろというのは、ユダヤ人たちがとても強調していたところです。

「長生きできるか」
= 聖山に住むのか。

1. 1.07.0 3:10 (3:8-12...) 長生きしたいですか?

詩34:11-16 悪の舌、欺きの舌をくちびる。

詩15: 幕屋、聖山に住む人は?

詩24: 聖所、幕屋に立つ人は? 欺き誓う

聖書の中でも、もちろん強調されていますので、それを見ていくことになります。殺人や姦淫、盗むことと同じように、その元みたいな、悪の種のようなものとして、このラション・ハラアがあります。誰が長生きするのかという話で、この悪い舌、ラション・ハラアがありますけれど、同じように質問がある詩篇があります。詩篇15篇1-3節「主よ。だれが、あなたの幕屋に宿るのでしょうか。だれが、あなたの聖なる山に住むので

しょうか。正しく歩み、義を行ない、心の中の真実を語る人。その人は、舌をもってそしらず、友人に悪を行なわず、隣人への非難を口にしない。」は34篇と似ています。

24篇にも同じような質問があります。すべては神様のものだということを言ったあと、24篇3-4節「だれが、主の山に登りえようか。だれが、その聖なる所に立ちえようか。手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかった人。」この長生きするのかと言っているところは、聖なる山に住む、神様の家に住む者は、このラション・ハラアを避けるということが、最初にしないといけないところですよ。

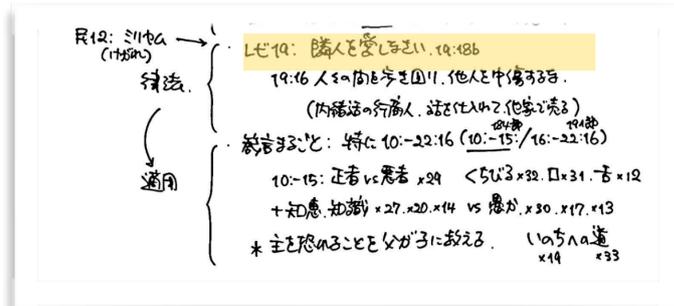
はじめのストーリー { 創13: 蛇の舌、欺き。一園から、いのちの木から...
創12: Tomb to rah の知識の木 - 知恵 *

それは、創世記の初めのストーリーからそうであるということが言えます。最初に聖なる山、聖所に住んでいた、園にいたアダムは、蛇の偽り、蛇の舌、欺きの舌に、騙されてはいないのですけれど、それに従って同じように悪の舌を断ち切ることをしなかったので、追い出されました。

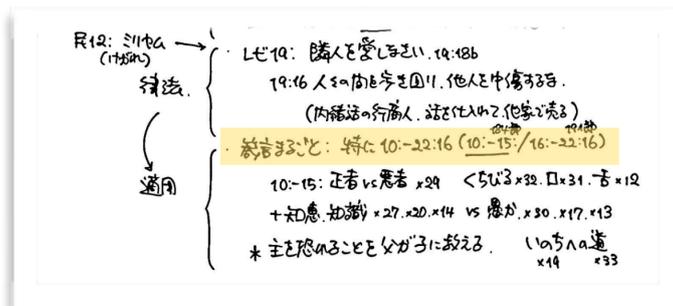
その時の、取って食べてはならないと言われていた「善と悪の知識の木」、トブ（善）とラア（悪）の知識の木。ラション・ハラアのラアです。善と悪のラアはラション・ハラアのラアと同じような言葉ですので、最初から悪のほうに傾いてしまった、それでしまったアダムのストーリーから始まっていきます。

R12: 114a (114a) →
L17: 19: 隣人を愛しなさい。19:18b
19:16 人々を愛する国々。他人を憎む者。
(内緒話の行商人、証を仕入れて他家に売る)
箴言33:21 特別な 10:-22:16 (10:-15:/16:-22:16)
10:-15: 正者への悪言 x29 <5び3 x32. 口=31. 舌 x12
+ 知恵、知識 x27. x20. x14 vs 愚か x30. x17. x13
* 主を恐るること父が子に教える。 (10:5ハ道 x14 x33)

欺きや偽りのストーリーはラバンがいたり…、たくさんの欺きや偽りのストーリーがあります。特に民数記12章で、モーセに対してアロンとミリヤムが逆らう。「どうしてあなただけが預言者なのか。」ということを書いて、モーセの権威に対して逆らう。そして、「わたしは口と口で語って、モーセはしもべである」ということを神様は宣言された時に、ミリヤムはツアラート、ひどい皮膚病にかかります。そして、7日間も民が止められたくらいその言葉の非難、女のことで非難したミリヤムのことばは、罰するの値する、裁かれる汚れたことばであると、このストーリーで言われています。



律法の中で「神様を愛し、隣人を愛しなさい」と言われているところは、レビ記19章18節にあります。「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。わたしは主である。」という箇所なのですが、そのところでも19章11章から「盗んではならない。欺いてはならない。互いに偽ってはならない。あなたがたは、私の名によって、偽って誓ってはならない。あなたの神の御名を汚してはならない。わたしは主である。あなたの隣人をしいたげてはならない。」16節の「人々の間を歩き回って、人を中傷してはならない。」これが、ラション・ハラアです。人々の間を歩き回って、人を中傷しているというのは、どうも商売人、行商人がどこかから話を買って、他のところで売るといふ噂話そのもの。(ある)人のところで秘密を買って、他のところで売るといふのが、人々の間を歩き回るといふことのようにです。それは、隣人を汚すことになって、ダメにすることになって、隣人の血を流す話になって、隣人を愛しなさいと言われているときに、悪い舌を制するということが非常に重大だと言われているわけです。



律法の中で言われている「隣人を愛しなさい」ということ、「口を制する」ことを律法の適用として、教えを丸ごと教えてくれるのは、箴言です。皆さんが知っているように、箴言の中には、舌とか言葉とか口の話は山ほど出てきます。

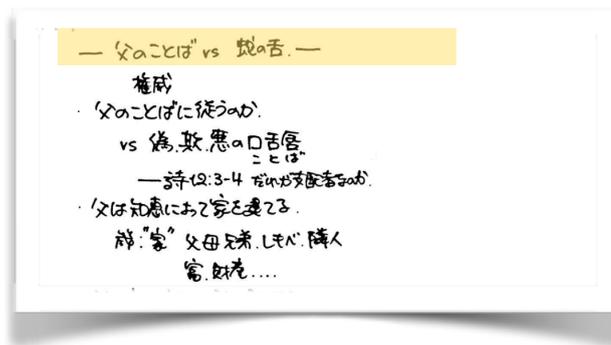
特に10章から22章までが、ソロモンの知恵として、いわゆる箴言っぽく、短く一節ずつ教えを言っていきますけれど、10章から15章までと16章から22章までは、書き方が違ってきます。10章から15章までは、A対B、A対Bのように、正しい者・悪者、知恵のある者・愚か者といつて対比する節ができています。16章から22章までは、正しい者はこうです・なぜならこうだから、というように同じことを強調していく形で書かれていますので、大きく二つに分かれます。長さもだいたい同じです。

この10章から15章の中で、正しい者と悪者という対比の中に、くちびる、口、舌の話が山ほど出てきます。正しい者はこうです、悪者はこうですという節が184節ある中に、29節あります。この184節の中に…、くちびる (32回)、口 (31回)、舌 (12回) というように出てきます。それと「正しい者と悪者」と同じように、「知恵のある者と

愚か者」もよく出てきます。(知恵、知識が) 27回、20回、14回。愚か者、愚かさなどが、30回、17回、13回と色々な言葉で出てきます。

これは、最初の善と悪の知識の木、正しい者と悪者を裁く知恵の木というようなことを連想するものなので、この(創世記の)ストーリーがもっと詳しく書かれている。(箴言の)最初の1章から9章のところは、知恵が擬人化されてストーリーになっています。

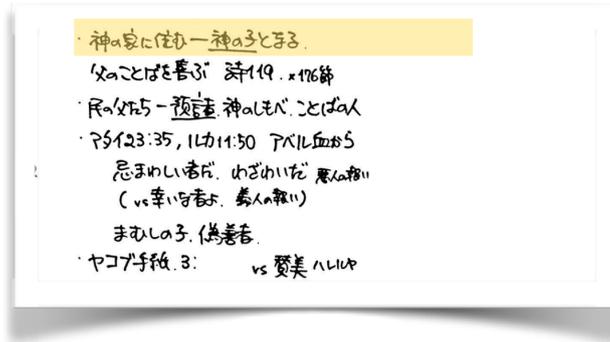
そして、律法の適用として書かれていますけれど、箴言全体は、主を恐れることを父が子に教える書物です。詩篇34篇もそうでしたよね。ラション・ハラアの34篇の出だしが「来なさい子たちよ。私に聞きなさい。主を恐れることを教えよう。」主を恐れることが幸いのいのちへの道だということを教える。その主を恐れることを父が子に教えるという書物です。



主を恐れることと、悪い舌というのが、主を恐れることに対して、主を恐れないというよりは、悪の舌で戦うということが想定されているものだということです。それで悪者の舌、悪の舌は蛇の舌だと言えます。蛇の舌と父のことば「主を恐れる」の戦いだということが、ここからも言えることだと思いますけれど、父のことば、主が与えた権威に従うのかどうなのか。偽り、欺き、悪のことばによって戦うということが、舌を支配しなくてはならないというときの重要な点だと思います。

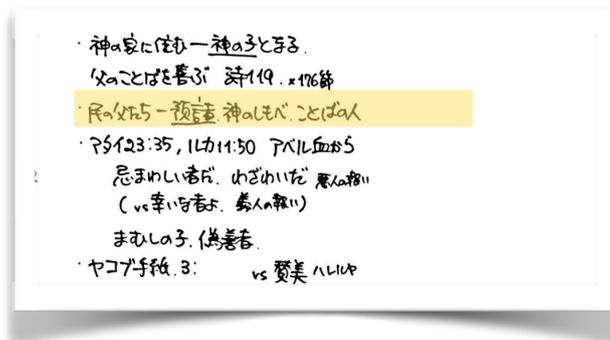
詩篇12篇に直接あります。「主がへつらいのくちびると傲慢の舌とを、ことごとく断ち切ってくださいように。彼らはこう言うのです。われらはこの舌で勝つことができる。われらのくちびるはわれらのものだ。だれが、われらの支配者なのか。」誰が支配者なのか、父のことばに聞き従いたくない。主の権威に従いたくない。

この箴言も父が教えていますけれど、父は知恵によって家を建てる。家を作るということが箴言の目指しているようなことだということは、家に関係することばがたくさん出てくることからわかります。父、母、兄弟、しもべ、隣人、富、財産。他にも神様の家、この場合は王様の家なので王国とも言えますけれど、王の家族が立てられるということを父が子に教えようとしている。それは、主を恐れることによるのだよ、主のことばに聞き従うことによるのだよということを教えている。



「神様の家に住む人は誰ですか」というのを別の言い方でいうと、神様の子どもは誰ですか、神様の子とされるのは誰なのですかということです。では、神様の子どもとは、どういう人なのですかということ、父の教えに対して、その教えを喜びとするというのが、神様の子どもの正しい応答です。箴言の10章から15章、16章から22章は、(10章から15章は) 184節、(16章から22章は) 191節あります。

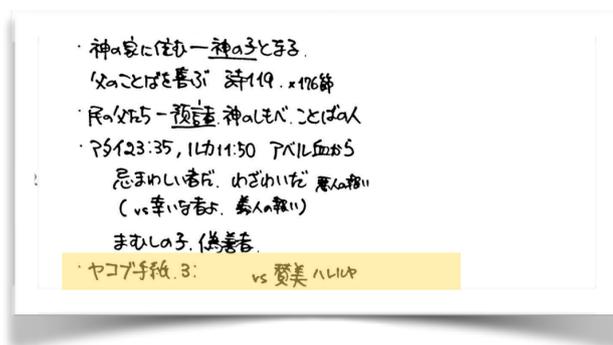
詩篇119篇は176節あって、箴言と同じように、同じことをずっと繰り返し言っているようなものです。「父のことばを喜びます。愛します。守ります。」とずっと同じことを繰り返し言って、この箴言の箇所と応答しているようなものです。この父の教えに対して、私たち神の子どもは、「そのことば、神の教えを喜びとします。」と答えます。



この父の教え、民の父たちは誰なのかということ、それは預言者たち、神のしもべであることばの人。その預言者たちは民の父たちなのですが、悪い舌の子孫、ヘビの子孫は、父のことばに逆らいますので、父のしもべの預言者たちを殺す。マタイ23章35節、「義人アベルの血からこのかた、神殿と祭壇との間で殺されたバラキアの子ザカリヤの血に至るまで、地上で流されるすべての正しい血の報復があなたがたの上に来るためです。」37,38節「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように(幕屋に入れるということです)、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。」

このマタイ23章のところで、アベルの血からこのかた預言者たちを殺した、あなたがたは…と言われた相手は誰なのかということ、23章13節から「忌まわしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。」この人たちは目が見えない。33節「おまえたち蛇ども、まむしのすえども。」まむしの子、偽善者であるというように、殺している人たちが言われている。

神様のことばであるイエス様と戦う者は、この偽り者、まむしのすえたち、偽善者たち。このわざわいだと言っている言い方は、幸いな者というのは、義人に対する報い。わざわいというのは、悪人に対する報いということです。義人アベルという言い方をしていますよね。義人に対する幸いと、悪人に対するわざわい。神様のことばに逆らう者たちは、神様のことば、預言者を殺すというところにいくわけです。そしてイエス様を殺す、十字架にかけるといことです。その戦いに勝利を治めたイエス様が天に昇って、弟子たちを教えて、教会を励ますということになります。



今度は、(この学びで)最後のところになりますけれど、ヤコブは新しいイスラエルに教えを与えています。ヤコブの手紙3章です。ここは皆がよく知っている舌の話をも12節まで言っています。そのあと知恵の話が18節まで続いています。直接は12節まで(言っています)。

舌は多くの点で失敗します。もし、ことばで失敗しない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できます。その問題は舌、舌は火であり、不義の世界。舌は私たちの器官の一つで、体全体を汚し、人生の車輪を焼き、ゲヘナの火によって焼かれる。この舌を制御することは誰もできない。少しもじっとしていない悪であり、死の毒に満ちている。その舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろう。賛美とのろいが同じ口から出てくる。

これは、実に汚れている。その悪の舌に勝利を治めたイエス様と同じように自分たちもそうならなくてはならないけれども、この戦いは簡単ではないということを言われています。では、どうやって戦うのだろうかということはこのあと見ていかなくてはならない問題なのですけれども、ここに示唆されています。賛美、感謝、ハレルヤ。これが悪い舌に対して戦う、戦いの武器であるということはこのあとまた見ていくと良いと思います。